

待ちに待った給食
ごはん ビーフン炒め
和風豆腐ハンバーグ
あさりのみそ汁

ほぼ日刊 夢の華
Cカ a r a t t

第751号

神町中学校 夢色通信社
令和2年11月5日

3年生 最後の合唱コンクールを終えて

「最後」ということもあり、どのクラスも練習に熱が入っていました。私はアルトパートだったのですが、音程が取りづらく人数も少なく、非常に難しかったです。しかし、杉山侑歌子さんや兵庫妃奈さんなどから沢山教えてもらい、いつの間にか歌えるようになっていました。他パートの人とも教え合ったり確認しあったりしながら、少しずつ“一体感”を感じていました。吹奏楽部のある先輩から「結果がすべてじゃない。自分達がどれくらい頑張ったか、どれだけ仲間の大切さに気づけるかだ。」と言われていたことを思い出しました。今年の合唱は、例年とは違って時間もないしステージも違う。だけど、違ったからこそ仲間の大切さや音楽の素晴らしさに気づくことができました。合唱コンクールのために新しいやまぎんホールを取ってくださった先生方、放課後毎日残って沢山の計画を練ってくれた実行委員、そして3組のみんなに本当に感謝しています。(3組 脇 美月)

合唱コンクールを通して、クラスの絆がさらに深まったと思います。音程はしっかり取れているのに声が出ていないことが、5組の課題でした。急遽行われた中間発表会では、緊張からか全然声が響いていませんでした。「INTERAPAX」は難しい曲で、ピアノの音とずれてしまうと曲が成り立たなくなってしまうったり、パートの音程が合っていないときれいに聞こえない曲でした。しかし、合唱練習を積み重ねるごとにだんだん良くなっていきました。クラスでぶつかり合うこともありました。が、団結して練習できたと思います。本番では、練習で積み重ねてきたことを自分なりに精一杯出し切れませんでした。最後の合唱コンクールを行えたことがうれしかったし、やまぎん県民ホールで歌えたことが幸せでした。賞を取ることはできなかったけど、とても良い思い出になりました。(5組 武田花梨)

初めてクラス合唱の指揮者となった。最初は「こういう感じで皆をまとめたい」「こうすれば皆はまとまってくれるはず」などと甘い考えでいた。それはただの理想に過ぎず、現実には思っていたものよりもずっと過酷だった。呼びかけてもそう簡単に一人一人に届くことなく、ただただ練習時間が減っていくばかりだった。齋野先生からの厳しい指導に加え、せっかく良くなってきたクラスの雰囲気を自分のミスで台無しにしてしまうことも沢山あった。辛くてどうしようもなかった。ずっと逃げ出したいと思っていた。でも、そんな自分を支えてくれた人が沢山いた。支えてくれた人がいたおかげで、下を向くことがなくなり無意識に前を向けるようになった。支えてくれた人達に感謝したい。合唱コンクールで学んだことは「1人では限界がある」ということ。全てを1人で成し遂げようとするのではなく、時には周りの人達に頼ることの大切さを学んだ。残念な結果で終わってしまったが、悔いはない。最初で最後の3年2組の指揮者ができて本当に良かった。(2組 青山恵澄)

